

企画 PR 部会 報告

【出席者】One Book One OSAKA 事業運営委員他 21 名
 【日 時】平成 22 年 11 月 30 日(火) 午後 1 時～2 時 45 分
 【場 所】大阪市立中央図書館 5 階 中会議室

・ 配付資料：「開票結果資料」・「H22OneBookOneOSAKA 事業絵本講座・世代間交流事業実施一覧」

1. これまでの経過（事務局より）

委員会他

- 7/30 第 1 回 One Book One OSAKA 運営委員会
- 8/4 第 1 回 One Book One OSAKA 子ども運営委員会
- 8/4-5 子ども運営委員夏休み合宿
- 10/17 第 2 回 One Book One OSAKA 子ども運営委員会
- 11/16-24 投票強化月間…中央・地域館のカウンター窓口にて貸出返却時に投票用紙を手渡し

2. One Book 関連行事（事務局より）

- 1) 「遊ぼう！One Book はらぺこあおむしを楽しむえほん展」…11/20,21 中央図書館 5 階にて開催
 2 日間連続で参加された方もおられた。今回のイベント用に巨大絵本やくぐりぬけられる遊具を作成。
 ダンボール製の巨大迷路やすべり台も設置。子ども運営委員の企画・実演により、クイズラリー、ブローチ工作教室実施。第 1 回 One Book トップランキング 100 の絵本展を開催するなど、延べ 1300 名もの親子連れに楽しんでいただけた。
 ([OneBookOneOSAKANEWS9 号](#) 参照)
- 2) 地域館での関連行事（別途配布資料参照）
 地域館でのイベントでは、第 1 回 One Book 上位ランキングの絵本の読みきかせや世代間交流事業、上位の絵本にちなんだ料理教室の開催等、各図書館で趣向を凝らして実施中。

3. 広報（事務局より）

新たな広報手段

- 1) 大阪市 PTA 広報 1 1 月号掲載
- 2) 大阪市内広報板 700 枚掲示(12 月上旬)
- 3) ラジオ「馬場章夫の新大阪大発見！」(11/14 放送)

その他（運営委員会での提案により実施）

- ・ ホームページのバナーの色を目立つ色に変更
- ・ 大阪市職員向けサイト（庁内ポータル）に広報掲載

新 提 案

- ・ 小学校や保育所、区役所や子育て支援施設以外にも、例えば、タウンミーティング等市民が集う集會にポスターを掲示してみては。
 →ポスターや投票用紙を設置できる公共施設をさらに検討する。（地下鉄なんば駅に掲示）

4. 第2回 One Book One OSAKA 投票・開票進捗状況報告（事務局より）

有効票…1178 票（2010/11/29 現在）

- ・ 今年度各区で実施している One Book 関連のイベントが奏功したのか、第2回の得票数も「はらぺこあおむし」がダントツ1位。（2010年11月29日現在）
- ・ 劇的に得票数が増えつつある絵本もある（「おとうさんはウルトラマン」）。
- ・ 第2回の投票用紙には年齢層の記入欄があり、年齢層別ランキングも集計中。年齢が上がるにつれ投票数は少なくなっている。
- ・ 昨年の第1回の投票受付期間は8ヶ月間、今回の第2回では6ヶ月間と2ヶ月も短い、第1回の8466票を上回ることが目標。小学校や保育所などの施設からの回収が未だのためか、出足は遅い。

5. 課題について（事務局より）

1) 投票用紙にかかれたおすすめ理由の紹介手段について（館内掲示・図書館HP上での公開 他）

- ・ 第1回の One Book One OSAKA で届いた投票用紙について、中央図書館ではエントランスギャラリーや5階にて、これまで7回にわたり一定期間展示してきた。地域館でも一定期間展示したり、ファイルに綴じて、利用者みなさんにいつでも閲覧していただけるようにしている。
- ・ 当館ホームページ（「図書寄贈のお願い」>「私の1冊」）のようにホームページ上でおすすめ理由を掲載したい。全投票用紙のおすすめ理由を紹介することは困難なので、特にご紹介したいおすすめ理由が書かれた投票用紙をみんなで選ぶ機会をつくっていききたい。

2) ランキングトップ100の絵本リストの公開（所蔵・所在・表紙画像情報とのリンク）

ランキングトップ100の絵本リストを図書館ホームページに掲載しているが、本市図書館の蔵書検索システムの資料検索画面とリンクさせ、所蔵・所在情報を参照できるようにする（ネット予約可能）とともに、絵本の表紙画像情報も付与することを検討中。

3) 書店との連携

- ・ 大型書店との連携等思案中。しかし、館内では、特定の書店との連携については懸念の声も。公平性を期す意味で書商組合等に声をかけるも、加入書店数がきわめて多いため、投票箱や用紙の搬送手段や管理上の課題等により足踏み状態。販促に利用することも含め、前向きに考えてくださっている書店もあり、今後も継続して検討する。

4) その他

- ・ 「私立小学校や中学校にも配布してはどうか」という意見が運営委員会や子ども運営委員会で出された。私立小学校については、子ども運営委員が通学している小学校に限定して依頼した。中学校については、図書館活性化に取り組んでいる学校や、図書部や読書部のある中学校に対し、協力を依頼しているところである。

6. 今後の本事業の取り組みについて（事務局より）

- ・ 平成23年度についても、One Book（第3回）を決める投票を行う予定だが、第3回目の投票について、このまま、お気に入りの「絵本」への投票でよいのか、「幼年童話」も対象にするとか、趣向をこらすべきか。

- ・ 翌24年度については、投票は実施せずに、One Bookにちなんだ行事のみを各区で行う予定であり、市費を見込めないであろう25年度以降のOne Book One OSAKAの取り組みの継続性については思案どころ。運営委員会では、投票は数年に1回でよい、毎年のように取り組む意味はないなどの意見も出ていた。また、予算がなくとも工夫して継続すべきとの意見もあり、事務局では、ポスター、投票箱、投票用紙のみの経費として40～50万円必要となるため、市費以外の財源（寄付）を検討していくべきかとの意見も出ている。

One Book One OSAKA 事業運営委員等出席者からのご意見

One Book に選ばれた絵本の活用について

- ・ One Bookは選ぶだけでなく、そのあとに活用されないといけないと思う。子どもたちみんなに手にとってもらえる機会をもっと提供するべき。
- ・ 4/23のOne Book発表会に出席し平松市長の読み聞かせを見せていただいた。自身のボランティア活動の中でも「はらぺこあおむし」を読み、本事業のPRをしている。お楽しみ会に来られるのは小さい年齢層が多く、また、「はらぺこあおむし」をご存知ない大人の方も多かったが、とても楽しんでいただけたと思う。
- ・ 社会福祉協議会関連のイベントでOne Bookに選ばれた「はらぺこあおむし」を活用しようと、さまざまなサイズの「はらぺこあおむし」の絵本を持参、参加した小学生も見比べながら「すごい！」とわくわくしていた。
- ・ 世代間交流事業として、高齢者福祉施設に子ども達と一緒に出向き、お年寄りの方とともに子ども達が作った「はらぺこあおむし」を用いて楽しんだ。施設職員の方が「子ども達が来てくれることでお年寄りが元気になる」と、喜んでおられた。絵本を通じて仲良くなれるということに勇気もらった気がした。
- ・ 小学校へ毎月、おたのしみ会で絵本の読み聞かせをしている。第1回One Bookに選ばれた「はらぺこあおむし」はもちろんのこと、その作者であるエリック=カールの絵本をさまざまに紹介している。
- ・ 「はらぺこあおむし」を夏のこども会や高齢者向けイベント等で大いに活用した。市長の読みきかせDVDも使用し、音楽も取り入れたさまざまなサイズの「はらぺこあおむし」も見ていただき、おみやげにフェルトで作ったブローチをお渡しした。高齢者の方々にも大変好評で、子どもだけでなく、この絵本をご存じない保護者にも喜んでいただけた。
- ・ 読みきかせのボランティア活動の中で、「はらぺこあおむし」を「大阪市で一番人気ものの絵本を

紹介します・・・」と言って紹介している。小学校高学年に対しても、One Book の話題を出すことで、幼児向き絵本の「はらぺこあおむし」を読み聞かせて、その面白さを伝えるとともに One Book 事業を宣伝している。

PR全般について

- ・ 投票用紙などを見ただけでは、今、投票を受け付けているのが“2回目”であることが分かりにくい。1回投票したので、もう投票してはいけないと思う子もいるようだ。“第2回”ということをもっとアピールするべきではないか。
- ・ 図書館のおはなし会を実施する部屋の中にもポスター等を掲示して欲しい。おはなし会等行事の際にPRをしそびれることもあるが、目に付けば伝える機会も増えるので、目に付くところに投票用紙を設置して欲しい。
- ・ ミーテ（URL：<http://mi-te.jp/>）という絵本のサイトでは「男の子に読まれている本」などの項目別絵本リストが紹介されている。絵本紹介ページからアマゾン（<http://www.amazon.co.jp>）にリンクしておりインターネットからの購入が簡易。子育てしている保護者が、絵本を購入しようにも書店にないことが多い。いくら良い本の紹介を見ても、図書館に来館して借りようという人は少数。手軽なネットを活用される方が多い。図書館においても、ネットでの情報発信をさらに進めていくべき。
- ・ 投票用紙については、地域館で集約・開票してほしい。孫がスーパーマーケットのイベントでぬり絵をしたら、店内に掲示してくれたことがある。当該区の図書館で掲示してもらえると子どもや家族は嬉しいものなので投票を行った館、地元の館で掲示してほしい。
- ・ 地域図書館でOne Book関連の展示は実施されているが、地味である。大型書店等を巻き込んで派手にアピール出来れば、もっと幅広い層に周知されると思う。保育所の施設職員は本事業のことは知っていても、通っている園児やその家族までには、なかなか情報が届いていない。投票数が少ないということはそこにも原因があるかもしれない。
- ・ 投票用紙に表現されている様々なおすすめ理由をホームページ等で紹介することについては大賛成。今日の部会会場でも展示されているが、どのような想いを持って投票したかを拝見することでそれぞれに読んだ人の思いがつながる。
- ・ 絵本の表紙画像の付与については以前から切望しており、実現すればありがたい。ホームページは時間に関わらず閲覧でき、自身も夜中に図書館の本を予約できて便利に感じている。
- ・ 企画PR部会に2回出席してきたが、私自身はなにもPRしてないなと思った。図書館で読みきかせボランティアをしているが、活動している地域館内の投票用紙の設置場所も知らない。ボランティアグループの定例会でもっとPRをすればよかった。
- ・ 投票は1冊とのことだが、何冊も好きな絵本があるかと思う。1冊を選ぶのは難しい。インターネ

ットで絵本を探すこともあるが、投票にあたり、図書館で借りられているトップ100リスト等参照できるものがあるとよい。絵本に詳しい人もそうでない人も投票するためには、選ぶために手助けになるような、記憶をたどり起こすようなツールがあると嬉しい。

- ・ 運営委員をされているボランティアの皆さんは非常に頑張ってらっしゃると感じている。保健福祉センターへ読みきかせ等の活動をしに行っているが、そちらでも PR をしようと思った。PR についてはタイミングがあると感じる。小学生が読書感想文を書く夏休み前後の時期に One Book の投票用紙を書いてもらうようお願いすると便乗効果で投票数が増えるかもしれない。(←これまでの運営委員会で夏休み前は学校からの連絡事項が多く、この時期の投票用紙配布は避けたほうがよいという意見が出た。大栗田の小学校に対しては、今年は2学期からの配布とした経過がある。)
- ・ おはなし会の際に、参加されている保護者20名ほどに呼びかけを行い投票していただいた。投票用紙の余白部分で、絵を描かねばと躊躇されることがあるので、好きなように書いてもらったらいと声を掛けている。声かけをしたらその場で書いてくれる場合が多い。「次回持ってきて」、というとなかなか回収は困難。
- ・ 地域に戻って、ボランティアグループメンバーに One Book の話をすると、皆さんあまり乗り気でない。「どうぞまた同じ本が1位になるのでは」という意見もいただく。保育所へ「はらぺこあおむし」大型絵本を持っていくなどして活用しているが、投票数をどのように増やすかということに対してはなかなか意見が出ない。保育所でのおはなし会後に投票を促すと、今読んだ本を書いてと言わんばかりになるので、控えている。
- ・ 区の図書館では、今年度から入口のすぐの目立つところに本事業のポスターを掲示している。One Book が決まったとして、次の年にどうつなげていくかが一番大事であり、各区の図書館では温度差もあるようだが、前向きに活用の仕方を考えていくべき。
- ・ 各区に One Book 運営委員がいる、ということは、地域の方に身近な場所から呼び掛けを行い投票してもらうということに意義があるのだと思う。

学校へのPRについて

- ・ 図書館のボランティアとして、小学校へ読みきかせに行っているが、学校図書館のボランティアから「うちの小学校に One Book の投票用紙は配布されているのか」という質問を受けることがある。全ての小学校から投票用紙が返送されているわけではないと聞いているし、図書担当の先生も事業はご存知かもしれないが、なかなか先生方にも浸透していないのが現実。学校内での周知方法が課題。
- ・ 大型書店に投票用紙やポスターを設置するのは一般の方への周知には効果的かもしれない。しかし、せっかく大阪市立全小学校に投票用紙を送っているのなら、まず、小学生がいかに投票してくれるか、1枚でも多く回収できる方法を考えることが投票率アップの近道だと思う。ボランティアメンバーにも小学校でのおはなし会時に声掛けをしてもらっているが、ボランティアと学校の先生では声掛けの効力が違う。校長会などで協力を呼び掛けても、ただ呼び掛けるだけでは不十分だと思う。

浸透しつつあるだろうが、さらなる工夫が必要。

- ・ 小学校へ投票用紙を配布しているが、校内でどこまで周知されているか懸念。小学校の投票数は、先生が興味を持って取り組まれているかで全然違うように感じる。学校の先生に **One Book** 事業についての興味がなければ、全く子どもに浸透しない。
- ・ 学校で絵本の読みきかせをした後は、必ず感想文を書いて送ってくれる。「昨年この本を読んでも楽しかったのに今年はなくて残念」という感想文もある。先生方が感想文を書く時間を設けてくれているように、**One Book** に投票する時間を設けてもらえるかどうか、学校や学年、クラス単位での取り組みを、全校で実施していただけたらよいのだが。
- ・ 絵本展を小学校で行った際に投票してもらいそびれたことが残念。毎週「放課後いきいき学級」にも行くし、おはなし会にも 12 月中にあと 1 回行くので、ボランティアグループの責任者から校長先生に依頼してみよう。
- ・ 各学年必ず本を読んで友だち同士で紹介しようという項目が教科書に挙げられている。それはまさに **One Book** のようなもの。紹介しあった本のポスターを書いて掲示したり意見交換したりしているようで、それを利用できないのかな、と思う。
- ・ 投票に関する積極的な取り組みを行っている学校にノウハウを聞き、各学校に伝えるなどすれば、目にとまり、やってみようとする学校も出るのでは。活用例を示していくのがよい。活用例アンケートを添付するのもよいかも。

今後の取り組み等について・その他

- ・ 投票期間については、諸般の事情により、昨年度より 2 ヶ月短くなったとのことだが、投票数増を目指すのなら、やはり期間設定は長いほうが良いのではないか。
- ・ 学校や保育所・幼稚園、ファミリーサポートセンターにも投票用紙やポスターを設置し、細々でも本事業は継続して欲しい。子どもは成長していく。たとえ「はらぺこあおむし」が再び第 1 位になったとしても、まだその絵本を知らない子はたくさんいる。上位ランキングにこんな絵本もあがっているのか私達ボランティアでも驚くこともある。
- ・ この会議室に展示されている投票された用紙を拝見すると、投票用紙自体は薄い紙だが、なんて重みがあるのだろうと思う。お気に入りの絵本に対する熱い思いが綴られているし、絵も描かれており、宝物のように感じる。これこそがとても大切なことなのだと思う。本事業を続けることが出来れば素晴らしい。
- ・ 子どもはだんだん大きくなり、成長するにつれて好きな絵本も変わっていく。投票用紙に記入することは成長を振り返る機会にもなる。3 年間は今まで通りの形式で実施するとして、平成 24 年度以降は細く長くでも続けられればと思う。このような事業が展開されている大阪市の子どもは幸せだと思う。

- ・ 何年も続けていれば何か実りがあるのでは。時代の波長があって注目されることもあるので、気長に続けていけば、チャンスが到来するかもしれない。先日、絵本作家の佐野洋子さんが逝去されたが、五十代以上のランキングでは、代表作でもある「100万回生きたねこ」が現在トップになっている。
- ・ こういう事業は長く続けることに意義があり、市民にも少しずつでも浸透していくと思う。One Book One シカゴのように続けていくことで財産になっていく。3年間の成果だけでなく、続けていく方法を模索したい。